

大学名 金沢大学

第74号 特集タイトル
「未来社会に向けた教員養成」

表題 「省察」による、学び、思考、実践。多様な学びをデザインできる教員の養成

特色ある取組

創造的で豊かな未来社会の実現には、将来を担う子ども一人ひとりの個性を活かした「多様な学び」を実践できる、高度なスキルを持った教員の養成が不可欠です。金沢大学大学院教職実践研究科では、最新の教育理論を学び、思考し、そして実践する少人数制によるケースメソッドにより、多様な学びをカスタムメイドでデザインできる教員を養成します。

① 学び

【基盤科目】において、最新の教育理論と実践を学び専門性の基礎をつくる。そのうえで、大学院生のキャリアと関心に応じて探求教育と共生教育を【高度化科目群】で発展的な学びを重ね(ピーク制)、高度な専門性を涵養する。

② 思考

【フィールドワーク】、【学校実習】で遭遇する臨床的疑問に対し、【実践カンファレンス】、【実践研究】では国際比較や隣接科学的知見を活用した議論を重ね、研究上の問いへと洗練させ、問題の本質を見出す思考力を修得。

③ 実践

【学校実習】、【実践研究】を通して、子どもが自分の問題や課題に即して自己決定し、実行・努力する過程を支える実践力を身につける。この過程で、一人ひとりの個性を活かし、多様な学びを実現するスキルを体得する。



先進的実践について議論を重ねる大学院生たち

サポート体制 (省察)

大学院生一人に研究者教員と実務家教員がペアで指導する体制。大学院生は、すべての授業や活動において毎回の省察(省察シート・Web実習ノート)を行い、教員と対話的に学ぶ。このために独自にクラウドを運用し、授業や活動ごとにデータを蓄積し、大学院生は随時アクセス可能。このクラウドシステムが学びを進める羅針盤になっている。

期待される成果

「学び」から、子どもの育ちと教育の営みについて、系統的でバランスが保たれた高度な専門性が涵養される。
「思考」から、学校にある「無意識の偏見・価値」を克服し、問題の本質を見出して対処する力量が涵養される。
「実践」から、インフォームド・ココペレーションにより子どもの自己管理能力を高める実践力量が涵養される。

教職大学院において、これらのスキルを身につけることで、一人ひとりの子どもの個性を活かし、潜在能力を引き出せる協働的探求者の養成が期待される。

参考URL: <https://pdte.w3.kanazawa-u.ac.jp/>